

ICT街づくり推進会議 普及展開ワーキンググループ（第5回）議事要旨

1. 日時

平成26年5月20日（火）13:15～15:00

2. 場所

中央合同庁舎2号館地下2階 講堂

3. 出席者

（1）構成員

徳田主査、石塚構成員、平湯氏（江坂構成員代理）、遠藤構成員、梶川構成員、神竹構成員、河合構成員、河野構成員、山本氏（桑津構成員代理）、渡辺代理（齋藤（豊）構成員代理）、齋藤（義）構成員、佐藤構成員、牧野氏（庄子構成員代理）、関構成員、高木構成員、武市構成員、辻田構成員、中村構成員、寺島氏（星野構成員代理）、細川構成員、森島氏（三崎構成員代理）、河野氏（森岡構成員代理）

（2）オブザーバ

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室、農林水産省大臣官房統計部、国土交通省総合政策局、国土交通省都市局

（3）総務省

阪本情報通信国際戦略局長、武井官房総括審議官、吉田政策統括官、渡辺大臣官房審議官、吉田情報通信国際戦略局参事官、小笠原情報通信政策課長、中村融合戦略企画官、増田地域情政策室長、白壁課長補佐

4. 議事

（1）地域懇談会の実施結果について

（2）ICTスマートタウンに関する日欧意見交換会の結果について

（3）第6回「ICT街づくり推進会議」における主な意見等について

（4）普及展開WGにおけるこれまでの検討結果について

（5）フリーディスカッション

5. 議事概要

（1）地域懇談会の実施結果について

事務局より、資料5-1について説明が行なわれた。また、地域懇談会に出席した構成員より、それぞれコメントがあった。

- (2) ICTスマートタウンに関する日欧意見交換会の結果について事務局より、資料5-2について説明が行われた。
- (3) 第6回「ICT街づくり推進会議」における主な意見等について事務局より、資料5-3、資料5-4及び資料5-5について説明が行われた。
- (4) 普及展開WGにおけるこれまでの検討結果について事務局より、資料5-6及び資料5-7について説明が行われた。
- (5) フリーディスカッション
構成員の主な発言は以下のとおり。

【高木構成員】

- APIのオープン化は大きく分けて3パターンある。一つ目は、公開して見せるためのAPIのオープン化。これによって、他地域が参照しやすくなる。
- 二つ目は、全国どこでも同じように使えることを担保するための標準・統一という意味でのAPIのオープン化。現在、街づくり事業に関しては、複数地域においてボトムアップで事業を実施しているが、将来的には良い取組だけが残り、それがデファクトスタンダードとなっていくのではないか。
- 三つ目は、共通プラットフォーム間のデータ連携を行うためのAPIのオープン化。地域間でのデータ共有を図ることで、複数地域に跨がったサービスの提供等が可能となる。
- 日欧意見交換会に関して、F I -WAREの取組は、複数の研究者が参画した体制を構築し、エコシステムとして上手く回っているとの話を伺ったが、これは欧州全体の取組においてメインストリームとなっているのか。

【徳田主査】

- F I -WAREの実証フィールドに近い地域においては、徐々に普及展開が進展しているものの、欧州全体の取組としてはまだメインストリームになっていないと言えない。普及展開のみを目的としたプロジェクトも実施しているが、それもまだ効果は限定的。

【梶川構成員】

- APIのオープン化に関する議論について、オープンにする対象をインター

フェースに限るのか、コンポーネントやシステムまで含めるのか、或いはオープン化に留まらずフリーにするのか、という程度の明確化は図るべき。

- また、オープン化されたデータの商業利用・二次利用に関して、権利関係を継承するかどうかというグレーゾーンを解消し、事業の収益性を確保する必要がある。

【河合構成員】

- オープンデータの在り方については、総務省と共にガイドラインの策定に向けた検討を進めているところ。データ所有者、データをベースにサービス展開する事業者、エンドユーザーの3つのステークホルダーの立場に立って留意事項を整理しており、是非参考にして頂きたい。

【事務局（中村企画官）】

- 現時点においては、構築したシステム（成果）をオープンにするという文化がまだ根付いていないため、まずはインターフェースだけでもオープン化し、他地域にも参照してもらう事例を増やししながら、段階的にデータフォーマットやコンポーネント等のオープン化についても検討していければよいと思う。

【森島氏（三崎構成員代理）】

- 袋井市のプロジェクト関係者としては、新たにICT街づくりに関する取組を実施しようとする自治体には、オープン化されているAPIを参照頂き、既設のインターフェースを活用できるものと、そうでないものを見定めて、うまく活用してもらえれば良いと思う。
- 災害時の備蓄品管理システムについては、適切な分類コード管理が重要であるため、データフォーマットなどを明示したり、運用マニュアルを策定したりすることで、効率的な横展開を図ることが可能。

【阪本情報通信国際戦略局長】

- 柏市や袋井市のプロジェクトにおけるオープン化の取組については、これまでにない先駆的・画期的な取組であり、高く評価させて頂いているところ。
- 構成員の皆様におかれては、抽象論の積み上げではなく、オープン化に当たってのより具体的なご指摘を頂けると幸い。

【徳田主査】

- センサーのメタデータ（気温、湿度、気圧）の表現方法など、業界によって

基準がまちまちになっているものについて、体系立てて分かりやすく示していくことが大事。

- また、APIが決まれば、ベンチャー企業がデータの商業利用を進める等、連鎖的に効果が広がっていくことが期待できる。本日配付された資料がオンラインで検索できるような仕組みがあると良い。

【牧野氏（庄子構成員代理）】

- APIのオープン化に関して、サンフランシスコでは、市がバスの運行状況の表示システムの導入をしようとした際に、バスのGPSの位置情報をオープン化したところ、マニアの方が無償でiPhoneのアプリを開発し、結果として低コストでシステムを導入できたという事例もあり、思いがけず得られる成果にも期待できる。

【徳田主査】

- 日本でも2～30の自治体において、オープンデータに先進的に取り組んでいる。ICT街づくりに関するオープン化されたデータを活用したアイデアソンやハッカソンなどのイベントを開催すると、オープン化の裾野を広げる良い機会になるのではないか。
- また、成果・効果の定量化は他地域への導入のインセンティブとして非常に重要。加えて、システムの導入コストをいつ回収できるのかというコストベネフィットの観点を追記できれば、なお良いと思う。

【齋藤（義）構成員】

- 玉城町では公共交通の利便性向上や住民の移動権の確保などを目的としてオンデマンドバスを導入したところ、住民の健康データも改善するという想定外の成果が得られたとのことだった。直接的な成果だけではなく、想定していなかった間接的な成果等についても分析してみる価値はある。

【遠藤構成員】

- 普及展開に当たって、先行地域におけるモデルをアプリケーションと地域の特性によってパターン化し、同じような特性を有する地域において、異なるベンダーが先行モデルのAPIを活用することでシステムをうまく構築できるかという実証実験を行ってみるのも良いのではないか。

【中村構成員】

- 実証プロジェクトの成果を面的に展開しようとした場合、通信に係るコスト

が課題になることもあり、既存のケーブルテレビの活用など、低コストでネットワークインフラを確保する工夫もポイントになる。

- ICTリテラシーの高い人材の確保が課題となっている地域も多いが、システムベンダーのOB等を再育成・活用することで、その解決の一助になるのではないか。

【石塚構成員】

- ICTの活かし方を考えるのではなく、街づくりにおける課題解決にどうICTを活用するかという観点が重要。
- エンドユーザー志向も重要であり、システムの親和性・信頼性を住民に見えるようにすることが必要。
- 持続可能なモデルとするためには、誰がコスト負担をするのかを明らかにすることが必要。水平展開に当たっては、自治体の首長に対して成果を定量的或いは定性的に分かりやすく説明することが必要。
- 近い地域特性を有する先行自治体がどこにあり、街づくり体制を構築するうえで足りていないリソースは何か、ということを確認できるような資料構成ができており、この資料を有効利用すれば普及展開の進展が期待できる。

【梶川構成員】

- 自治体の有する地域の特性もさることながら、自治体としてどういう問題意識や街づくりに対する思いを持っているかということも重要であり、そういった観点から先行事例を類型化することも必要。

【神竹構成員】

- 持続可能なモデルを考えると、必然的に住民の個人負担が必要になると思う。但し、個人負担が前提のシステムでは利用者の増加が見込めないため、地域ポイント等で利用者のインセンティブを付与している事例も積極的に示すことができれば良いと思う。

【齋藤（義）構成員】

- 真庭市のプロジェクトでは、課題解決にどうICTを活用するかではなく、自分たちの強みを活かすためにどうICTを活用するかを考えており、そういった観点で事例を類型化することにも意義があるのではないか。

【細川構成員】

○各地域の特性の活かし方やその地域で成功したポイントを盛り込んで事例を紹介した方が良い。

【徳田主査】

○本日の頂いた意見を踏まえ、6月3日に予定されているICT街づくり推進会議において、本WGにおける検討の状況を報告させて頂く。

以 上